

# 持続可能な地域社会の担い手育成を目指して

岡山県立矢掛高等学校

## 1 全体計画



## 2 キャリア教育における体験的な取組の紹介

### (1) 学校（学科）の特色

明治35年に開校した旧制矢掛中学校以来の伝統を受け継ぐ歴史ある学校である。「至誠力行」の校訓のもと、伝統に甘んずることなく持続可能な発展を目指した改革を続けている。平成16年には矢掛商業高校との再編整備により、地域に根ざした新たな矢掛高校が再スタートした。平成20年には県内初のユネスコスクールに認定され、平成23年にはユネスコスクール ESD 大賞を受賞している。平成23年から現行の普通科（探究コースと総合コース）と地域ビジネス科となる。探究コースでは「総合的な学習の時間」での地域課題の探究を軸に、総合コースでは学校設定教科「やかげ学」で地域に学ぶこと軸に、地域ビジネス科では商業科目「課題研究」での地元商店街とのコラボレーションによる商品開発や地域の事業所でのインターンシップを軸にして、それぞれ特色を持って地域課題の解決に向けた探究と実践を進めることで、持続可能な地域の担い手としての力を付けている。

### (2) 学校設定教科「やかげ学」について

#### ①目的

1	体験的な学習活動をとおして、学ぶことの楽しさや意義を理解する。
2	地域の施設や人材の活用により、郷土を知り、その伝統や文化に対する理解を深める。
3	校外の幅広い年齢層の方々との交流、異学年での交流活動、発表会や報告会を行うことにより、 <u>コミュニケーション能力</u> や <u>プレゼンテーション能力</u> を育成する。
4	<u>人間関係を築く力</u> 、 <u>社会に参画し寄与する態度</u> 、 <u>規範意識</u> や <u>公共心</u> の育成を図る。
5	自己の生き方・在り方を考え、 <u>職業観・勤労観</u> を持つことで、 <u>自尊感情のある自立した個人</u> の確立を目指す。
6	「持続発展教育（ESD）」を視野に、単なる地域貢献活動にとどまらず、 <u>持続可能な社会の担い手としての意識</u> を育成する。

#### ②校内体制

学年	学期	主な行事	教育課程上の位置付け	実施担当
1	1 2・3	総合コース集会（随時）・ 学習支援ボランティア やかげ学発表会見学・ 中間発表会見学	総合的な学習の時間	1年団教員 講座担当者
2	1 2・3	座学（講義） 各施設での実習 やかげ学発表会見学・ 中間発表会	学校設定科目「やかげ学Ⅰ」	講座担当者
3	1 2・3	各施設での実習 やかげ学発表会	学校設定科目「やかげ学Ⅱ」	講座担当者

#### ③主な内容

##### <1年>

##### ・総合コース集会

本校普通科総合コースでの学びの意義を説明し、次年度からの「やかげ学」の学びへとつなげる。「やかげ学」の活動内容やその意義についても説明する。



##### ・学習支援ボランティア

7月下旬に3日間、町内の小学校に行き、授業補助を行う。自ら主体的に行動し、次年度からの「やかげ学」の先行体験とする。



## < 2年 >

### ・座学[1学期]

4月から6月まで、マナー、町づくり・行政、町の文化・歴史、農業、観光振興、福祉等の講義を、矢掛町と矢掛町教育委員会から招いた講師から受け、矢掛町についての理解を深める。その後、2学期からの実習先を決定する。



### ・町内の各施設での実習[2学期～3学期]

8月に3年生から引き継ぎ講習を受け、9月からそれぞれの施設での実習を行う。



### ・中間発表会[12月、3月]

それぞれの時点での活動の成果を発表し、その後の活動への目標を明確にする。



## < 3年 >

### ・町内の各施設での実習[1学期]

2年生時と同じ施設で実習を行う。8月に2年生に引き継ぎ講習を行い、実習を終了する。3年生になると、実習に自信がみなぎっているのが写真から分かる。



### ・「やかげ学発表会」に向けて[2学期]

校内で活動のまとめ、振り返りを行い、12月の発表会に向けての準備をする。

### ・「やかげ学発表会」[12月]

活動のまとめのプレゼンテーションを、地域に開放して、やかげ文化センターのステージにて行う。また、休憩時にはロビーにてポスターセッションを行い、各施設のプレゼンテーションで説明できなかった部分についても細かく説明する。1、2年生は真剣にメモをとる。



### ※実習施設一覧※

矢掛町立図書館、やかげ郷土美術館、水車の里フルーツピア、たかつま荘、老人福祉センター、矢掛小学校、三谷小学校、山田小学校、川面小学校、中川小学校、小田小学校、美川小学校、矢掛保育園、三谷保育園

以上14施設

## ④成果

現在の高校3年生が「やかげ学」第6期生である。実習の各回それぞれに目標を設定し、自ら主体的に行動する。友人と協力して課題を解決する。帰校後には必ず振り返りシートを書き、自己分析をする。小さな活動の積み重ねが各自の成長に、そして地域愛の高揚へとつながっている。話を聞く時は相手の目を見ることはもちろん、常にメモをとりながら聞く態度は、1年生時から身に付くようになってきた。

机上の学習では体験できない立場で物を考え、実行する。相手の立場に立ったふるまいが自然にできるようになる。職業観について先行的な経験ができる。また「やかげ学」を履修したいという思いを持って入学する生徒が増えている。

## ⑤今後の課題

実習施設には職種の偏りがあるため、実習先を各人の希望の進路と一致させることが難しい。職種は違っていても、社会人として必要なことは共通する部分が多いということを事前に伝えており、生徒もそのことを十分理解している。

また、今後少子化の影響を受けることが予想されるので、現在の施設実習をさらに充実させる手立てを考えなければならない。若者や子ども一人一人を大切にする町の素晴らしさをこれからも継承できるよう、努力を続けていきたい。